

令和3年度第2回阿波おどりネットワーク会議 議事概要

日 時：令和3年5月10日（月曜）16時～17時30分

場 所：徳島市役所13階 大会議室

議 題：2021阿波おどり事業計画（案）について

出席者：委員15人

内藤座長（徳島市長）

利穂委員（徳島県観光政策課長）

鈴田委員（徳島市経済部長）

矢田委員（一般財団法人徳島県観光協会 理事長）

佐藤委員（公益財団法人徳島県文化振興財団 理事長）

犬伏委員（公益財団法人徳島市文化振興公社 事務局長）

山田理事長（阿波おどり振興協会 会長 朝日委員代理）

池田委員（徳島県阿波踊り協会 副会長）

七條委員（徳島県阿波おどり保存協会 理事長）

森浦委員（徳島県旅館ホテル生活衛生同業組合 理事長）

木内委員（徳島商工会議所青年部 会長）

小松委員（公益財団法人徳島経済研究所 事務局長）

中村委員（NPO 法人新町川を守る会 理事長）

鈴江委員（徳島都市開発株式会社 代表取締役社長）

中谷委員（つなぐ阿呆とくしま 代表）

事務局7人

にぎわい交流課

【会議の内容】

1 開会

2 委員紹介

3 市長挨拶

4 意見交換のテーマ

2021阿波おどり事業計画（案）について

(内藤座長)

阿波おどりの開催には踊り手の状況が重要になってくる。

まずは、阿波おどり団体の方からご意見をお伺いしたい。

(池田委員)

阿波おどりの開催の判断について、何段階か経て最終判断を下すということ
でいいのか。また、1度判断した後に、状況が悪化、もしくは好転した場合は
それぞれどうなるか。

(事務局)

開催としての判断は、大きくはチケットの一般販売が開始される直前の6月
下旬と、栈敷設営前の8月手前の2つだが、その間についても新型コロナウイルスの
感染状況、全国的な状況を踏まえて、その都度判断することになる。

また、当初モデルAと判断し、その後、状況が悪化した場合にはモデルBや
Cと判断を変更する場合がある。逆に、中止と判断し、その後、状況が好転し
た場合にモデルBやCに変更するという事は、現実的には難しいと考えてい
る。

(池田委員)

分かりました。

(山田理事長)

阿波おどりに携わってきた団体として意見を述べたい。

内藤市長におかれては、徳島が誇る郷土芸能、文化の最高峰といってもおか
しくない阿波おどり、2年連続でぞめきの火を消さないために、この事業案を
打ち出していただいたこと、また、私ども踊り手の団体としては「踊りたい」
という気持ちが一番にあり、踊ることのできる場を与えていただける会議に参
画させていただいたことに、お礼申し上げる。

また、2月に行われた意見交換会で、コロナ禍で規模を縮小してでも踊りを
できないだろうかということ意見を述べたが、そこから短期間で計画案
をつくった事務局にも敬意を表したい。

振興協会としては、全面的にできる限りの協力はさせていただきたい。

コロナ禍の先の見えない情勢で、その時々にあった実施を考えていくのは自
然なやり方であり、阿波おどりを中心として経済効果の発展に寄与している部
分も含めて取り組んでいるのは素晴らしいことだ。その中で、阿波おどりに長
年携わってきた経験者として意見を申したい。

規模を縮小した場合、例えば、有料演舞場を藍場浜のみにすると従来の4分
の1となる。時間帯を、第1部が18時から20時ではなく19時30分、第
2部を20時30分から22時30分ではなく22時にすると、それぞれ90
分間となる。この条件だと1日に有料演舞場で踊れるのが30～35連にな

り、踊れる連が振興協会と県協会だけでも埋まってしまう。

しかしながら、阿波おどりは郷土芸能であり、徳島全体でこれまで盛り上げてきたことを鑑みれば、それ以外の一般の連も含めて数多くの連が踊りを披露する場を提供していく必要がある。

今後、コロナの影響で参加が激減する可能性はあるが、早い段階で、正式な意思決定をしてもらい、具体的な準備にとりかからないと、栈敷設営やチケット販売等の早急な運営は、まずできないだろう。

振興協会としても、「1日1回は栈敷で踊れるわけではなく、我慢するところは我慢しなければならない」と意思統一をした。

こうした、栈敷で踊れない連の受入れという意味で、おどり広場の活用が出てくると思う。雑踏が警戒される中、無料演舞場を含め、道路閉鎖をして行うことはとてもできないだろうから、例えばアスティやあわぎんホールで、一般連や栈敷で踊れない連が夜の公演を行うのはどうか。

また、阿波おどりは夏祭りという意味合いもあるので、露店の設置についても検討してみてはどうか。例えば南内町の公園において、スタッフを張り付けて手指消毒を実施し、ソーシャルディスタンスを保ちながら、会場を一方通行にするなど、感染対策を強化し、なお、かつ露店のにぎわいができる「お祭り広場」的なものをつくり、そこに大きなスクリーンを設置して踊りを鑑賞できるというような、規模は縮小するがグレードを高める案がこれから出てくるのではないか。

やめるとなればいつでもやめることはできるが、急に実現するのは不可能である。時期が近づくにつれ、具体的な問題が浮上してくると思われるが、皆様とワンチームになって徳島の阿波おどり発展に向けて歩んでいきたい。

(内藤座長)

ここに集まっている皆がワンチームで阿波おどりを成功させたいという気持ちは同じだと思う。

(七條委員)

栈敷の中は安全だと思うが、移動中などは密にならないか。踊り子が安心・安全に踊れる環境を整えればいいと思う。

(内藤座長)

踊り連の移動についてはネクストモデル検証の際にも課題であった。そのことも阿波おどり団体を含めてお話しをさせていただきたい。

(鈴江委員)

アミコビルについて、来年の秋を目処にグランドオープンを目指しているが、関連して中心市街地を阿波おどりで盛り上げ、にぎわいを創出していきたい。我々の管理するアミコドームやデッキについて、メイン会場の藍場浜と隣

接していることから、にぎわいづくりのため、できる限りの協力はしたい。

(内藤座長)

ご協力いただけるということでお力添えを感謝する。

(中村委員)

こういう時期にやる阿波おどりなので、最低限のことをするというのでどうか。演舞場は藍場浜だけにして、後は歩行者天国にする。露店を出すと食べ歩きが出てくるので、出さない方がいい。私達がしている吉野川フェスティバルも食べ歩きが定着しているので今年は中止しようと考えている。阿波おどりとなると物凄い人になる。それならば最低限でお願いしたい。

(森浦委員)

宿泊業界からすれば早め早めに手を打ってほしい。阿波おどりでコロナのクラスターが出ると大変なのでその対策は十分にとってほしい。また、公表できる部分は早めに公表してほしい。

(内藤座長)

宿泊業界との兼ね合いについては、改めてお話しをさせていただきたい。

(木内委員)

8ページのマップで規制されたエリアは歩行者天国になると思うが、そこで勝手に踊り出す人などについてどのように対策するのか。「踊らないでください」といったアナウンス等をして踊らないように規制するのか、それとも放っておくのか。勝手に人が集まってしまう可能性はあると思う。

(事務局)

現時点では、マップの赤の点線エリア以外での歩行者天国のような運用は考えていない。エリア外で踊る人の規制については今後検討する予定である。規制区間での踊りや楽しみ方については、「お願い」という形になるかもしれないが何か発信できるようなことを検討したい。

(山田理事長)

私の勘違いかもしれないが、歩行者天国にしないということを前提にこの案がつくられていると思ったが違うのか。中村委員の言われた最低限で阿波おどりを実施するということに対しては全く異議はない。しかし、歩行者天国にして道路規制をかけて往来を自由にするということは雑踏をまねく所以であり、感染対策は不可能だと思う。先般、中谷委員が3,000人規模で感染対策を行った上でイベントを成功させたと聞いている。その規模では可能だったと思うが、阿波おどりに関してはこれが2倍、3倍、4倍となり、ソーシャルディスタンスを維持できず、感染に発展していく恐れがある。昨年の検証で有料栈道を1つにした理由はそこにあると思う。

(内藤市長)

マップの赤の点線エリアで示している部分は警察等と調整して交通規制することを想定しているが、その部分を歩行者天国という言葉を使い、誤解をまねいてしまった。申し訳ない。

(矢田委員)

今後も状況が著しく変わってくることが予想されるので、細かい部分を事前に決めておくことが必要である。お客様目線では、中止になったときのチケットの払い戻し方法や、県外からのチケット購入を制限する場合の方法など、迷惑をかけないという視点でとくしまアラートの状況に応じてという部分を精密に決めておくべきと思う。

また、観光事業所の代表という立場からの意見として、業界が非常に苦しいため、ホテルがとれたらチケットが手に入るというような仕組みも検討していただきたい。来ていただけるお客様に「来てよかった」と思える踊りをぜひ期待したいし、そのための練習場所の提供など、できる部分については一生懸命させていただく。

(内藤座長)

練習場所の確保等ご協力いただけるのは非常にありがたい。

(池田委員)

練習場所について、現在とくしまアラートの関係で小中学校の体育館が使えないが、阿波おどりに関して優先的に使用できないだろうか。

(山田理事長)

振興協会においても小中学校の体育館が使えない状況である。

池田委員が言われたように優先的に使用できれば非常にありがたいが、体育館の利用中止の目的が「感染状況の阻止」だから阿波おどりだけ特別にというのは不可能だと思う。しかしながら、練習も不可欠であり、屋外の練習について、市民の合意が得られるよう、市からサポートしていただけるのであればお願いしたい。

(事務局)

市として、できる部分、できない部分もあるかと思うが、教育委員会等と協議をしながら練習場所の確保に努めていきたい。

(犬伏委員)

我々は阿波おどり期間、例年、皆さんに楽しんでいただくということで、おどりステージをやっている。今回、感染対策は必要だが、ゴーサインが出れば、全面的に協力して「おどりステージ」を開催する考えだ。

(佐藤委員)

阿波おどりは観光資源であると同時に貴重な文化資源でもある。危機的な状況ではあるが、文化振興の観点から再建に向けて努力していかなければならな

い。徹底した感染対策を施し、あわぎんホールの有効活用ということで、練習場所として提供することで、協力できればと思う。

(内藤座長)

文化振興の観点から徳島市も徳島県も一緒になっていけたらと思う。

(小松委員)

全体的には皆様、前向きに考えているという印象を受けた。実際、開催するとなればいろんなリスクが出てくるだろう。また、応援する業者との連携が不可欠になると思うので、早め早めの最終の開催判断をすべきである。

(内藤座長)

先手を打って、というのはその通りだと思う。

(中谷委員)

私どもは「つなぐ阿呆とくしま」という新設の任意団体であり、無料での「阿波 MATSURI」というイベントを、感染対策を施しながら2回実施したという前身がある。意見として、モデルAの状況下のおどり広場では、想定したよりも人が来すぎることが考えられる。その場合は、この収支計画よりもさらに対策が必要になってくると思うので、費用については再考すべきである。

(内藤座長)

その部分も含めて検討させていただく。

(利穂委員)

モデルAに関しては、交通規制や雑踏についての計画をさらに練るべきである。

(内藤座長)

本日出席の全委員の方よりご意見をいただいたが、欠席されている委員の方より意見を頂いているので事務局から紹介してください。

(事務局)

今回欠席されている水際文化フレンドリー協議会の高木委員より、「万全対策をして実施するという目標に向かうことが一番大事。阿波おどりは徳島市だけでなく、徳島県内、国内外から広く支持されている観光文化事業である。県にもご協力いただき、縮小してでも踊りを開催すること、関係者がともに協力し、阿波おどりを未来につないでいくことに意義がある。今後に向けて提案等もさせていただきたい。」との意見をいただいている。

また、東委員より、「感染症対策について、責任を持った意見を述べるにはもう少し精査する必要があり、次回会議で意見を述べさせていただく。」との意見をいただいている。

(内藤座長)

本日いただいた意見について、徳島市の方で検討し、できる限り、事業計画

に反映していきたいと思っている。

本日は貴重な意見を頂戴し、誠にありがとうございました。会議後においても事業計画等にご意見があれば、事務局にご連絡いただければと思う。今後ともご協力をお願いしたい。

5 閉会